

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700029		
法人名	特定非営利活動法人 フミリサポートおひさま		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒028-0024 岩手県久慈市栄町32地割37番地9		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々変化する、利用者様の個々の思いに寄り添い、やりがいや満足感を得て笑顔になり、安心・安全に暮らして頂けるようケアを職員全員で検討し情報共有し取り組んでいる。食事の栄養バランスや彩、一汁三菜の献立は、皆様美味しく食べて元気でいられるよう盛り付けにも気を配り、刻み、トロミ付けも適切に個々の状態に合わせて行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接の通所介護事業所(おひさま)、小規模多機能事業所(ひなたぼっこ)と連携して多様な福祉ニーズに応えている開所9年目の事業所である。「心をこめたケア・心の通い合うケア・感謝と尊敬の心でケア」を目指す理念の柱を「心」とし、それを実践する7項目の具体的なケア基準を定め、職員間で共有して日々の介護に当たっている。隣接した中学校に通う生徒の姿や聞こえてくる声は、利用者を励まし、楽しませてくれている。食事提供の研修を重ねる中で、栄養とバランスに配慮した献立を提供することにより、食事が楽しいものとなり、潤いのある生活に繋がっている。既に数年前に内閣府の事業として「洪水時の避難確保計画」をモデル的に作成しており、発災時等の地域住民による協力体制も整っている。子育て支援から高齢者生活支援まで幅広い地域の福祉ニーズに応えるとともに、先駆的取り組みを行っている質の高い事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年9月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、全職員目につく事務室に掲示している。理念の「心」を大切にし、研修会時確認・意識づけしケアにつなげている。	法人理念「心(心をこめてケア・心の通い合うケア・感謝と尊敬の心でケア)」を受け、「心地よい時間・居場所・ふれあい」の提供に努め、職員間で実践状況を確認し合っている。利用者の「自分らしく生きたい」との願いに応えるケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	馴染みの理・美容室の利用、市のお祭りの観覧、近隣サロンからのボランティア参加、地区の中学校からの職場体験学習を通じての交流、避難訓練の際には地域の方にも参加していただいている。また地元高校のNPOサークルの活動へ協力や地域のキャリア教育の一環として職場体験の受け入れも行っている。現在コロナ禍の影響で地区中学校からの清掃ボランティア活動・マンドリン部の演奏等、地域と交流ができない状況となっている。感染者数や動向を踏まえ検討していきたい。	町内会に加入し、例年は地域の行事(盆踊り・敬老会)に参加したり、町内サロン活動者が来所し踊りなどでの交流が活発である。中学・高校生の実習やボランティア(演奏や清掃)での来所も多い。今年は新型コロナ感染防止のため見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修等の講師など認知症の人の理解についての研修会講師を行っている。認知症相談窓口の設置もしており、相談を地域包括支援センターに繋げるシステムがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況報告や利用者様の報告をし認知症についての理解や事業所の特色を知ってもらうよう努めている。災害時の避難計画書について意見をいただいている。また、外部評価結果や実践状況を報告し、意見をいただいている。	委員は、町内会長・民生委員(区長)・市介護支援課・地域の消防団・交番所長で利用者と家族も出席している。災害(水害)時の避難について、委員の意見・提言を受け、近くに新たな避難場所を確保している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やおひさま忘年会等へのイベント、避難訓練にも参加いただき事業所の現状を深く理解して頂くよう努めている。また外部評価結果や実践状況を報告し意見を頂いている。	市介護支援課との連携は密で、その都度各種行政情報や助言・指導を得ており、要介護認定申請や各種手続きも丁寧かつ円滑に進めて頂いている。地域包括支援センター(元気の泉)からも、地域の介護情報や様々な取り組みについての情報を頂くなど緊密な関係が出来ている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎に研修会を実施している。身体拘束の有無をチェックシートを活用し個別に確認している。玄関の施錠は防犯のため夜間のみ施錠している。	身体拘束防止の方針や排除マニュアルを定め、定期的に研修を実施している。認知症の特性(行動障害)を十分理解し合い、言葉による行動抑制(スピーチロック)について職員アンケートを行い、気をつけるべき言葉について職員相互で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	3か月毎に研修会を実施し、虐待防止関連について正しい理解に努め、言動・行動・ケアの仕方等について正しく理解を深め虐待防止の徹底に努めている。また着替えや入浴時身体を観察をし傷等が見られたときは報告し職員間で共有しどのようにできたものか原因究明するため話し合いをしている。高齢者虐待防止セルフチェックリストを使い、マイナスと思えるような感情が「生じている」「ある」ことに気づいているが、「うまく対応できない」ことについて、皆で振り返っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、他事業所研修会へ参加や自施設研修会を実施し制度の理解・活用の仕方を学び理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やサービス開始時、又は制度改正時には文書と十分な説明を行い納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時での対話や家族参加の施設行事、通院支援等の時、心配事や要望などの情報収集に努めている。家族の不安が和らぐよう席替えや部屋替えも検討し実施している。新型コロナウイルス感染症の対応に「3密」「手洗い」「マスク着用」「面会制限」等についてお知らせしている。	家族の来所面会時に、意見・要望を伺っていたがコロナ禍で面会制限となったため、ホームでの様子の写真を多く掲載した広報(ひだまりのおはなし)特別編を発行し、家族へ届けている。通院同行の要望があり、必要な場合には職員が同行し、直接医師からの話を伺うようにしている。	コロナ禍で行事の見合わせや面会制限が今後も続くことが危惧される。家族の意見・要望を把握する上で、事業所独自の家族アンケートの実施について、検討されることを期待したい。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが施設長が面談を行っている。月1のリーダー会議では職員の意見や提案、委員会活動の報告や検討を議題に運営に反映させている。	日々の申し送り時や毎月の諸会議、各種委員会に加え、施設長の個人面談で職員の意見・要望を把握している。職員の提案により、手すりの除菌など特別の清掃を日中業務から夜勤時間帯に変更している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は入社時一律となっているが、経歴、勤務状況、資格取得により賃金の引き上げを行っている。各自の能力に合わせた研修への受講費用や旅費等を補助している。10年勤務者には永年勤続表彰をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成雇用で働きながら資格取得できるようサポートしている。外部研修受講後伝達講習を行っている。月1回行われる施設内研修は担当制で行っており、資料の準備・教えることで自分も理解を深められるよう考慮している。また、1年に1度行っているペア研修会では、研修テーマから資料準備・発表の仕方をペアで取り組み、全事業所での研修会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に参加し、他施設職員との交流・意見交換、いわて地域密着型サービス協会(グループホーム・小規模多機能ホーム)の研修会や情報交換会などに参加しサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入以前より情報収集に努め、必要なニーズの把握に努めている。入所することへの不安、利用者の気持ちに配慮し安心を確保するための関係づくりに努めている。コミュニケーションを大切にし、困っていること、不安、要望については、特に時間をかけて傾聴し職員間でどのようなケアが良いのか考え、安心して生活していただけるように努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入以前より、家族様から入居前の様子や困っていること、不安なこと、要望を十分聞き取りしている。家族様が要望等なんでも話しやすい雰囲気づくりを心掛け、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の意向を把握し、利用者様のその時点での状況を見て、必要としている支援を見極め、利用者様にとって良いと思われることは家族様と相談し対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの好きなことや得意分野を把握し、食材の下ごしらえ・食器拭き・タオル干し・たたみ物等をコミュニケーションをとりながら、一緒に取り組んでいる。感謝の気持ちを伝え、お互い様の支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と一緒に利用者様を支えていくことができるよう、状態に変化があった時等は、面会時や電話で状態・様子を伝えている。また、キーパーソンとなる家族様、そのほかの家族様へ月1回のお便りで利用者様の様子を伝えている。家族様にできることはしていただき、課題も一緒に考えながら、共に支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス流行後は、感染防止のため、「新しい生活様式」「業種別ガイドライン」の実践、マスクの着用、「3密」の回避といった基本的な感染対策を継続するなかで、面会や外出は感染対策に考慮しながら、家族様へ電話やガラス越しでの面会、家族様の通院付き添い等関係が継続されるよう支援に努めている。	例年は家族親戚や面会・外出・外食・外泊や馴染みの理・美容院を利用している。今年はコロナ禍で多くの制限があるが、家族が同行する通院、ガラス越しの面会や電話など、工夫して馴染みの関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の認知の症状や、一人ひとりの個性や相性を考慮してテーブルの配置・席順を考え良い関わり合いが出来るよう支援している。会話がスムーズにできるよう、職員が間に入り関係が良好に築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了となられた利用者様の家族様へ、その後の状況や相談を伺っている。入院した場合、他のサービスへスムーズに繋がるよう情報提供や他施設入所申請等の支援を行っている。		
Ⅲ. そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の行動や会話、家族様からの情報から思いや意向の把握に努めている。利用者様一人ひとりに強い関心をもち、気づきを大切にしケース記録や申し送りノートにて職員間で情報共有しケアにつなげている。入所前のその人らしさと現在とは必ずしも同じではない、今の思いのくみ取りとこれから先の安心に繋がる支援になるよう毎日のミーティングやモニタリング後の報告で検討している。	お茶の時や入浴時に利用者に寄り添い話を聴き取っており、その内容は、利用者の代弁として家族は受け止めてくれている。言葉で伝えることが難しい方には、日頃から行動パターンに留意し表情や仕草から思いや意向を汲み取る様に努めている。申し送りノート等に記入し、利用者の意向を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様やサービス利用時の様子を担当ケアマネジャーから情報収集している。利用者様からの聞き取りや日々のコミュニケーションからも利用者様を深く知るよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や心身状態を記録、また日々の生活状況から有する能力等の把握に努めること、これらは職員が共通認識でケアの実践にあたるのが重要である。職員が見守りながら、あるいは一緒に作業を行い、(安全に配慮し)利用者様が出来ることは行っていただきADLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者・管理者・看護師・職員(必要な場合は作業療法士)がそれぞれの専門性を活かし現状に合った目標設定や課題解決の方法を話し合っている。家族様と利用者様と一緒にプランを確認し検討している。変更や加える課題があれば即時に書き加えサービスに繋げる。	介護計画に基づく視点で日々の様子を記録し定期的にモニタリングを行っている。6カ月を基本に見直し、看護職や作業療法士、家族の声を反映させ「心身の健康に配慮し、安心安全な生活」の確保などを旨とした、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	種々の毎日の記録を細やかに記録し、毎朝のミーティングや申し送りノートで情報共有しケアの見直しをしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様付き添いの通院時、利用者様の状態により送迎を行ったり、入院時家族様の状況により柔軟な支援ができるよう努めている。利用者様の状態も変化していくので、その時々ニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理・美容室への通いやかかりつけ医をこちらの都合で変更しない方針だが、コロナ禍の影響で馴染みの理・美容院利用は難しい状況となっている。家族様から「コロナ禍であるが、馴染みの美容師からカットできないか」相談があり、休日の施設一室を提供しカットして頂いている。感染者数や動向を踏まえ、今後も入所の前から利用していた商店での買い物支援など自宅で暮らしていた時の地域資源とのつながりがをなるべく絶たないように取り組んでいきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の確認をし受診されている。家族様付き添いの際には、かかりつけ医連絡表へ情報・状態を記し主治医へ伝えていただくようにしている。必要に応じて看護師や管理者が付き添い家族様と一緒に様子を伝えている。	入居前からのかかりつけ医を継続受診している。家族同行の際、事業所で作成した様式の情報提供書を医師に届けている。看護師がおり、日常の健康面の把握がなされ口腔ケアも充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で得た情報や状態の変化、気づきは看護師へ報告・相談し、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、認知症の為、利用者様の訴えが届きにくいことがある。体調不良の訴えのサインや不安の援助方法を家族様や病院関係者に伝え、入院中も安心して過ごせるよう情報提供している。また、定期的な面会では状態確認や情報交換、病院関係者との関係づくりに努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を提示し、家族等へ事業所でできることを十分に説明している。終末期を迎える利用者様とその家族様には、医師からの医療的見解を踏まえた上で話し合いを重ね今後の方針を決めている。また、利用者様の体調変化時にはいつでも医師と相談できる体制であり、病院と連携しながら援助できている。	入居時に「重度化対応に関する指針」を説明し、本人・家族の同意を得ている。重度化が進んだ際は、介護・看護・医療の多職種協働により対応している。久慈地区では訪問医療がなく看取りは実施できず、特養や老健、病院への転移としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応やAEDの使い方を定期的に研修会で行い、実践時に対応できるよう努めている。また急変時や事故発生時に備え、落ち着いて伝えられるよう、フローチャートや救急車通報時落ち着いて正確に伝えられるよう施設の住所等を職員が目につくところに貼り適切な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中・夜間想定避難訓練を実施し、消防署員の指導や講評を頂き、避難方法や道具の使い方を身につけている。地域の方の避難訓練参加協力も得ており評価して頂くことで、避難計画書や避難対応へ反映させている。また、研修会を実施し避難場所・避難経路、持ち出し物品等全職員が把握できるようにしている。夜間の避難経路も実際夜に職員が確認し、危険個所の把握に努めている。	町内会・消防団の協力を得て、定期的に火災又は水害に対応した日中と夜間想定避難訓練を実施している。近くの神社を災害時避難所とし、連携を図っている。非常時用備蓄は3日分の食糧・水を確保し、自家発電機も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に基づいた感謝と尊敬の心で支援している。言葉づかいや態度に気をつけ、入浴や排泄などプライバシーの配慮に気をつけている(入浴・排泄:着替え・排泄場面が外から見られないようドア・カーテンで仕切る(脱衣室では、一人ひとりカーテンで仕切る)。周囲の人に聞こえるような大きな声で声掛けしないなど)。	理念「感謝と尊敬の心でケア」を実践し、言葉遣いや態度に配慮して職員は支援をしている。居室入室時にはノックや声掛けを励行し、トイレや入浴介助では羞恥心に配慮し、利用者が安心して笑顔で生活できるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方できない方に合ったコミュニケーションの仕方を考え、できる限り自己決定に近い支援になるよう努めている。また日常の会話に関心を持ったり、利用者様の思いに心を傾けている。自己決定の難しい時には利用者様の立場に立ち支援するよう努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの思いや希望を優先し、一人ひとりのペースに合わせた生活や活動ができるよう配慮し支援している。行動・心理症状時には利用者様に合わせ心の安定を図り、利用者様の思いや希望に沿った生活をしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後、整容の声かけや支援をしている。季節に合わせ、利用者様の好みやその人らしい衣類を着ていただけるよう支援している。利用者様が衣類等の選択することが困難な場合、職員と一緒に選んだり、同じ服装にならないよう用意している。また汚れた衣類は交換するよう働きかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの咀嚼力・嚥下状態や食事制限、体調に合わせた食事形態で提供している。また、食事提供の仕方を研修会でいき、刻み食の方にも美しく見えるよう盛り付けに気をつけている。旬な食材を取り入れ、その日のメニューを利用者様が見えるところに貼り、食事が楽しみになるよう話題にしている。食事の下ごしらえや片づけを一緒に行っている。	旬の物や地元産を多く用いた献立とし、食材は近くの八百屋、スーパーに出向いて購入している。職員は利用者が出来る範囲で一緒に準備や調理、片付けを行っている。見た目、味、食べやすさを工夫し、楽しく食べる事を通して、豊かな生活や健康維持を図っている。	バランスや心身の健康に配慮した食事を提供しており、「白髪が減る」「糖尿病の服薬が少なくなる」等の実績が見られます。今後も食事の研修を重ね、豊かな生活と心身の健康保持が継続される食事提供を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の記録を行い全職員が把握できている。残量があった時には咀嚼力・嚥下状態、体調や義歯の具合等要因を職員間で話し合ったり、利用者様へ伺ったり、状態に気をつけている。水分確保は不感蒸泄の考慮し夜間帯や起床時も勧め、特に夏場は気をつけて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し、利用者様一人ひとりの状態により毎食後の口腔ケアの声掛けや支援をしている。また、曜日を決め義歯洗浄剤を使用し義歯・口腔内の清潔保持に努めている。唾液の分泌を促す健口体操を毎食前に実施している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様でリハビリパンツや尿取りパットされている方はトイレで排泄が来ている。オムツを使用されている方は時間を決めて居室で排泄援助がなされている。個々のADLを把握して支援し、排泄の失敗を減らせるよう声掛けをし誘導している。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、見守り、声掛け、誘導を行い全員がトイレで排泄している。布パンツ利用が3名で他はリハビリパンツを用いており、全員がトイレ利用を継続できる様、一人一人に応じた介護を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分補給・運動で便秘の予防に努め、便秘が改善されない時にはかかりつけ医へ受診している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回以上の入浴を基本とする中で、個々の希望や状態に合わせて気持ち良く入浴していただけるよう入浴剤・菖蒲湯・ゆず湯で季節感も取り入れている。コミュニケーションをとりながら、安全にリラックスして入浴していただけるよう支援に努めている。	週3回の入浴を基本としているが、本人の希望で4回の方もいる。入浴を嫌う利用者はいない。入浴剤を用い色や香りを楽しみ、菖蒲湯や柚子湯で季節感を味わっている。入浴中は職員との会話も弾み、ゆったりとした潤いの時間となっている。着替えは職員と一緒に選んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的リネン・パジャマの交換を行い、居室の温度や掛け物にも気をつけ気持ち良く休んでいただけるよう支援している。その時々状況や心理症状に寄り添い安心していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬ケースに目的・用量を記し、副作用等お薬情報は全職員いつでも見られるようにしている。誤薬や飲み忘れがないよう、2重・3重に確認をし記録している。服薬について看護師が担当し研修会を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共有スペース、廊下の清掃やテーブル拭き、食材の下ごしらえ、食器拭き、たたみ物、タオル干し等の役割があり笑顔が多く作業に取り組んでくださり、喜びを感じる機会となっている。余暇活動の支援、共有空間の菜園を見ながらお話しし、気分転換等で楽しみや張り合いをもって生活していただけるよう支援に努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、季節のドライブ、家族様との外出、利用者様の状況・状態に応じた支援ができるよう努めていた。音楽が好きな方はコンサートへ、選挙の投票や近隣中学校の体育祭、文化祭等へ希望を聞き時には個別で時には全員で出かけていた。天候状況にもよるが市のイベント、花火大会や秋祭りの観覧を実施していた。コロナ禍の現在は外出を自粛しており、施設でできる菜園収穫や行事を実施している。感染者数の動向を踏まえ検討していきたい。	例年は日課として事業所周辺の散歩、隣接する中学校行事への参加、初日の出や花見など季節毎にドライブを行っていた。今はコロナ禍で制限されているが、中庭で栽培する野菜の世話や周辺の散歩を行い、また、懐かしい外出時の様子をビデオで視聴している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使用でき、いつでも必要なものを買えることを伝えている。一緒に衣類の買い物に出かけていたが、コロナ禍の現在は外出を自粛している。今は本人の希望を伺い職員が買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話を使用できるように支援している。携帯電話を持っておられる利用者様は自室へ置かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を取り入れた明るい建物で、温度・湿度・空調の管理を行い快適に過ごしていただけるようにしている。季節の花を飾ったり、月のイベント時には一緒に作り(水木団子・桜餅・クリスマス装飾・壁画制作等)、飾りつけしている。必要な場所に混乱を防ぐためのトイレの目印を設置した。共有空間から見えるところに、菜園や季節の花が見え季節感を取り入れるようにしている。	南向きの事業の中央にある食事兼ホールは、吹き抜けの陽射しが差し込む明るい空間になっている。壁面には季節感ある手作りの作品や写真が飾られ、方言一覧が掲示されている。窓からミニ菜園の野菜や花が見え、潤いあふれる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに、ソファや椅子を置き一人で過ごされたり、利用者様同士で談笑して過ごされる居場所がある。好きな場所でくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来ていただいている。使い慣れたものや家族写真、好きなものを置き利用者様がここに居ていい場所だと思っていただけるよう、居心地よく安心して過ごしていただけるようにしている。	ベッド・チェストが備え付けられ、暖房はパネルヒーターである。居室の戸に細長いガラスが組み込まれ、プライバシーに配慮しつつ居室内の様子が確認できる。利用者は各自写真や人形、小物を持ち込み居心地のよい居室になっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は明るく、共有空間は手すりがあり段差のないバリアフリーで安全に歩行できる環境となっている。利用者様の身体状況により付き添いや見守りを行い安全に配慮している。認知機能の低下により、トイレの場所が分からなくなった利用者様に分かり易い標識を壁に取り付けたことで安心感を得てもらうことが出来た。		